

「つや姫」食味分析や研究

県と県立大 取り組みへ

県と県立大(浜田市野原町)は3日、松江市内中原町の県職員会館で連携調整会議の本年度第1回会合を開いた。大学側が、県が売り込む水稲新品種「つや姫」の販売拡大に向け食味の分析、研究などに取り組むことを確認した。

連携調整会議で確認

本年度
初会合

連携調整会議は県と県立大が情報共有し、互いの抱える課題を解決することを旨とし、2012年11月に始まった。毎年2回開いており4回目。県や松江、出雲、浜田の3キャンパスの関係者計20人が出席した。本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

連携調整会議は県と県立大が情報共有し、互いの抱える課題を解決することを旨とし、2012年11月に始まった。毎年2回開いており4回目。県や松江、出雲、浜田の3キャンパスの関係者計20人が出席した。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

本年度は、県農畜産振興課と松江キャンパスが連携し「つや姫」の特徴や強みを把握し、他産地米との競争力を磨くため食味や断面分析などを行うなど20事業に取り組むことを決めた。

設などの連携の在り方に助言、指導を行うコーディネーター役を県立大とともに

島根で演劇「日本の面影」上演

明治の文豪・小泉八雲（ラ
フカディオ・ハーン、185
0～1904年）の没後11
0年を記念して、女優の紺野
美沙子さんが主宰する朗読座
の演劇「日本の面影」が、6
都県の9会場で上演される。
八雲が愛した松江市では27、
28の両日に、島根県隠岐の島
町では24、25日にそれぞれ公
演がある。

同劇は、作家の山田太一さ

小泉八雲没後110年記念

んが八雲を主人公に脚本を執
筆。1993年に初演され、
八雲にゆかりのあるイギリス
・ロンドンやアイルランドの
ダブリンなどでも上演され
た。

朗読座は2012年に東京
都と金沢市で公演。今回は、
5月28日から6日間の東京公
演を皮切りに1カ月間にわた

松江27、28日

隠岐の島24、25日

り、東京都と岐阜、石川、富
山、兵庫、島根の各県を巡る。
島根公演は、「八雲が愛した
場所を演じたい」という紺野
さんの思いが実った。八雲役
を草刈正雄さん、妻セツを紺
野さんが演じる。

近代化が進む中、ギリシャ
生まれ、アイルランド育ちの
八雲がセツと松江で出会い、
結婚して日本に帰化。家族と
共に自然をいとおしみ、日本
古来の文化を大切にすることを
描く。八雲が再話した怪談



演劇「日本の面影」の一場面（2012年7
月、chihiro撮影）

「耳なし芳一」
や「雪女」を、
セツが八雲に
語り聞かせる
場面もある。
紺野さんは
「次世代に伝
えたい大切な
ものがぎゅっ
と詰まってい
る、心が温か
くなる作品」
とコメント。
八雲のひ孫
・小泉凡さん
（52）＝島根県
立大学短期大
学部教授＝は

「八雲は家族を大切にした。
家族や八雲を囲む人との関係
を絶妙に描いた作品を通して、
八雲の生き方に触れてほ
しい」と話している。

松江公演は27日午後6時半
と28日午後2時に、いずれも
島根県民会館（松江市殿町）
で開演。小泉八雲110年
祭まつえ実行委員会が主催
する。観賞料は前売り一般
4千円、高校生以下2千円
（当日各500円増）。問い合わせは27日分が松江市民
劇場、電話0852（26）
3094、28日分が市観光文
化課、電話0852（55）
5517。

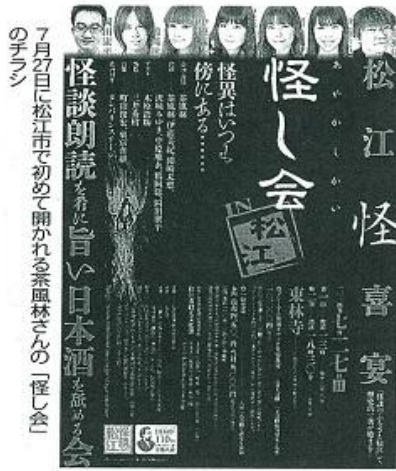
隠岐公演は24日午後6時半
と25日午後2時に、ともに隠
岐の島町総合体育館（隠岐の
島町栄町）で開演する。主催
は町教育文化振興財団。観賞
料は前売り一般2500円、
高校生1500円、中学生以
下千円（当日各500円増）。
問い合わせは同財団、電話0
8512（2）0237。

怪談文化の松江 発信

来月、朗読会や談議計画

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が再話した「怪談」の舞台が数多くある松江市は本年度から、怪談をキーワードに観光客誘致に力を入れる。有名声優による怪談朗読会を7月に初めて聞くほか八雲のひ孫で鳥根県立大短大部教授の小泉凡さんの怪談談議を昨年に続き開催。「縁結び」に続く観光テーマとして、全国にアピールする。

松江市は昨年11月に「怪談 みる街・松江を全国発信する。のふるさと松江」を宣言。八 テレビアニメ「サザエさん」雲没後110年の本年度からの磯野波平役で知られる声優本格的に、怪談文化を体感で、茶風林さんが開く怪談朗読



「縁結び」に続く観光テーマ 全国にアピールへ

会を招致。「怪し会」IN松江と題して7月27日に同市外中原町の東林寺で開く。ほかに伊藤美紀さん、岡崎未恵さんら人気声優が出演して現代と古典の怪談を披露する。

前日には、昨年に続く「松江怪談談議」を同市外中原町の月照寺で開催。小泉凡さんと、怪談作家・木原浩勝さんが「現代の視点で語る古典怪談。怪談のふるさと松江で語る小泉八雲」をテーマに語り合う。

市は、両イベントなど「怪談のふるさと松江創世事業」に本年度830万円を投入。同事業では、ゴーストツアーを主催するNPO法人松江ツアーリズム研究会との連携を強化し、怪談ゆかりの地を案内する語り部の増員などでツアー内容充実を図る。都会地での観光誘致活動も行う。

市観光文化課の二村真課長は「ポスト選宮の対策が問われる中で、怪談を重要な観光材料と位置づけ、観光客誘致に生かしたい」と話した。

文化

古事記学会が主催する、2014年度の第61回古事記学会大会が、島根県立短期大学部松江キャンパスの後援を得て、21、22の両日、松江市内で開催される。

古事記学会は、日本上代文学の『古事記』や『日本書紀』『風土記』などの研究を推進する学会で、1953(昭和28)年に創立された『古事記』編さん1300年を機縁に、年1度の全国大会は、近年では伊勢・高岡、奈良、宮崎で行われた。

その機運を受け、本年度の大会は出雲神話で特に関係のある島根県での開催となった。古代からの歴史と文化が受け継がれてきた出雲での大会開催は、同学会にとって大変意義深いとしており、学術研究の場としてだけでなく、広く一般に公開する。両日ともに参加無料で、事前申し込みは不要。

6月21日(土) 午前

古事記学会 松江で開催

21、22日 一般に公開 参加無料

《プログラム》
 ▽公開講演会
 6月21日(土) 午後1時～4時 出雲神部と出雲の神々

松江で開催される2014年度の第61回古事記学会大会のポスター

△午後の部
 (国学院大兼任講師 小林宣彦)

天石屋戸神話における「内告」―天照大御神と天宇受売との関係
 (奈良県立万葉文化館主任研究員 井上さやか)
 『古事記』五十二番歌における敬語表現
 (立命館大教授 藤原亨和)
 削偽定実の一端―和邇氏・葛城氏の記述をめぐって
 (曾野雅雄)

△午前の部
 『先代旧事本紀』の史書性
 (奈良女子大学大学院生 星愛美)
 神武紀冒頭部の表現と位置
 (上智大学大学院生 葛西太一)

問合わせは、島根県立短期大学部松江キャンパス古事記学会運営事務局、電話0852(20)0223、担当村上 謙輔。

男女共同参画や人権啓発

絵本で児童に読み聞かせ

雲南市 2 作品を作り
サポーターら



完成した絵本を手にする「筆者」

自分らしく生きることやお互いを尊重することを分かりやすく伝えようと、雲南市男女共同参画サポーター（石田美幸代表）らが男女共同参画や人権啓発を主題にした絵本2作品を完成させた。市内の小学校で読み聞かせに活用しているほか、松江市の県立大短大部のおはなしレストランライブラリー、県内の公立図書館に置いている。

県から委嘱を受け啓発

に取り組んでいるサポーターや、雲南市職員ら13人がテーマや構成を考え、同市内の女性2人がボランティアで挿絵を描いた。

「はしのうんどうかい」（14歳）は木製の橋が主人公で、跳ね橋やめがね橋など多様な橋が集まる

運動会に参加しそれぞれが得意な技を披露する内容。「みんな違ってみんないい」という考え方を表現した。

「ぴかりん」（16歳）は男児と女児が協力し

試験に立ち向かうストーリー。男らしさ、女らしさといった固定観念を取り除くべく、「男の子だって泣いていいんだよ」とのせりふを入れた。

公益信託しまね女性ファンドの助成金約100万円を活用し2012年度から2年間にかけ制作した。雲南市男女共同参画センター副主幹の吾郷静さん(40)は「子どもだけでなく大人の啓発にも役立てばいい」と期待を寄せている。

いずれもA4判で、各100部発行。希望者には貸し出す。問い合わせは同センター、電話0854(42)1767。

「日本の面影」島根公演

文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850～1904年）の没後110年を記念し、朗読座の演劇「日本の面影」が今月下旬、島根県内の2会場上演される。八雲ゆかりの地での初公演を前に、女優で劇団主宰者の紺野美沙子さんに意気込みを聞いた。

役・セツの妻・八雲の妻・小泉八雲の妻・紺野美沙子に聞く

誇れる故郷の素晴らしさ表現

「山田さんが得意なホムドラマ。明治の松江を舞台に八雲から見た家族や日本の生活、文化が描かれ、喜びや悲しみなど、生きていくうえで大切なことが伝わってくる。不朽の名作だ。」

「八雲役を俳優の草刈正雄さん、セツ役を紺野さん。すべてが名シーン。八雲の人のつながりや自然、霧

が松江で初めての朝を迎え、聞こえてくるいろいろな音に感動するシーンや、ヒケラシの声を夫婦で静かに聞く最後のシーンも、とてもきれいだ。文化に目の肥えた島根のお客さんにも喜んでいただけたと思う。」

「最初は高校1年生の修学旅行で訪れた。やはり六道湖が印象深い。古くから

が演じる。「セツは八雲をずっと陰で支えた。妻であり、母であり、控えめな心の強さがあり、懐の広さがある。そういう日本女性の謙虚さが伝わる。懐の広さがある。そういう日本女性の謙虚さが伝わる。懐の広さがある。そういう日本女性の謙虚さが伝わる。」

「朗読座による初演は2012年。その年の春、八雲がたどった道のりを追体験しようと松江を旅行した。そこで、八雲のひ孫の小泉凡さんに手紙を書いたことがきっかけで、めだたく実現の運びになった。ご当地で演じたかった。」



「日本の面影」島根公演への思いを語る紺野美沙子さん（横浜市）



舞台「日本の面影」の一場面

この・みさこ 1980年のNHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロイン役で人気を得る。国連開発計画親善大使として国際協力分野でも活躍。2010年から朗読座を主宰する。東京都出身。53歳。

「日本の面影」島根公演
 ▼隠岐会場（隠岐の島町栄町、町総合体育館）は24日午後6時半と25日午後2時に開演。前売り一般2500円、高校生1500円、中学生以下千円。問い合わせは町教育文化振興財団、電話08512（2）0237
 ▼松江会場（松江市殿町、島根県民会館）は27日午後6時半と28日午後2時開演。前売りは一般4千円、高校生以下2千円。問い合わせは、27日分が松江市民劇場、電話0852（26）3094。28日分は松江市民観光文化課、電話0852（55）5517。



絵本に見入る参加者

「読みメン」育成へ 学生2人が実演

父の日に合わせ催し

松江・県立図書館

父の日に合わせ、男性による読み聞かせを促すイベント「おとうさんといっしょにえほんをよむかい」が15日、松江市内中原町の県立図書館であった。県教育委員会の「読みメン育成プロジェクト」の一環で、父親2人を含む参加者が絵本や紙芝居に親しんだ。

同プロジェクトでは6月「活動に参加している学を「読みメン月間」と定め、生2人が講師を務め、「1公立図書館にお勧め絵本コンクール」を開催するなどして、「え、どれがいい？」など絵本読み聞かせをする男性「読みメン」の育成に力を入れている。

県立天短大部（同市浜乃木7丁目）で、子ども読書推進の「もよなしレストラ

を学んだ。

読み聞かせ後には、読んだ絵本を記録する「読みメンてちょう」を配布。受け取った松江市西川津町の宗村広昭さん（38）は「学生の読み聞かせは、とても良かった」と話した。

父親らは、学生の実演を

通し、子どもたちに優しく語り掛けるなどして絵本の

立大
県短

劇や歌で楽しい時間を

来月5日
ほいくまつり 学生熱心に準備

県立大学短期大学部（松江
江市浜乃木7丁目）の保育
学科の学生が、7月5日に
同市殿町の県民会館で「ほ
いくまつり」を開く。親子
に楽しい時間を過ごして
もらうと、劇や歌を発表す
る。本番に向け、107人
の学生全員が熱心に準備を
続けている。写真。

保育学科の学習成果を発
表する場として毎年開き、
41回目。昨年40周年の節目
を迎え、今年は新しい歴史
を始める思いで臨む。
歌唱「きつとあしたもい
いてんき」、影絵劇「ロバの

王子」、劇「おむすびころ
りん」の3演目を発表。歌
唱では、雲や雷など8人の
妖精に扮した学生が歌と踊
りで、個性を尊重すること
や友情の大切さを伝える。
ステージに立つ学生だけ
でなく、舞台装置を手掛け
る大道具パートは、煙の演
出や、歌唱に登場するドア
の制作に苦心。このほか、
音響、照明、衣装など計11



のパートに分かれ、全員が
「まつり」の成功へ一丸と
なっている。

七夕の时序に開くことか
し、当日、会場で配る。
ら、イラストを交えて七夕
まつりは午後2時半か
を紹介する小冊子を手作り
ら。入場無料。

「松江お茶の絵本」人気

県立大短期大学部（松江
市浜乃木7丁目）総合文化
学科2年の三島悠希さん
（19）が、松江の茶の湯文化
をまとめて出版した「松江
お茶の絵本」が人気を集め
ている。5月から市内の小
学校で郷土学習に利用さ
れ、旅館から「客室に置き
たい」との依頼も舞い込ん
だ。女子学生ならではのか
わいくポップなデザインが
受けている。

県立大短大生が出版

大学支援受け取材、営業
小学校授業でも利用

広島市出身の三島さんは
同大入学後、和菓子店や茶
屋が多く、家族で「お茶の
時間」を持つ松江の茶文化
に興味を持った。だが、市
内の図書館に詳しい書籍が
なく、松江出身の友人に尋
ねても「茶どころ」の認識
が薄いことに気付いた。
三島さんは、市外出身者
の目線で絵本を作ろうと
昨春、同大の学生支援事
業「キラキラドリームプロ



「松江お茶の絵本」で茶の湯文化の魅力を伝える三島悠希さん

プロジェクト」に応募。補助金
20万円を単資金に、1人で
市内の茶製造販売業者や
菓子店、松江藩7代藩主
松平治郷（不昧）ゆかりの
15か所。ほのぼのとした水彩

のイラストや分かりやすい
文章で、松江と茶の歴史、
「若草」などお茶に合う松
江の和菓子、家族でお茶を
飲む習慣を紹介した。
三島さんは「多くの人に
茶文化の魅力を知ってもら
い、家族でお茶の時間をつ
くってほしい」と、県立図
書館や市立図書館に絵本を
置いてもらうよう「営業」。
そこで、学校関係者などの
目に留まり、評判が広まっ
たという。
絵本の問い合わせは同大
短大部、電話0852（2
0）0216。

「被災地支援は継続必要」



学生の報告に耳を傾ける来場者。松江市寺町、スサノオカフェ

企画「きっかけバス」で訪問 島根大生8人が訴え

松江で報告会

東日本大震災から3年が過ぎ、記憶の風化を防ぐと全国47都道府県の大学生が被災地を訪れる企画「きっかけバス」の活動報告会が22日、松江市内であった。バスに参加した島根大の学生が被災地で見聞した様子を説明し、参加した市民60人と地域防災や被災者支援の在り方を考えた。

きっかけバスは、公益社団法人「助けあいジャパン」が主催。島根県からは、島根大と島根県立天の学生40人が2月下旬、岩手と宮城、福島の被災地を訪れた。

報告会は、きっかけバスの参加者でつくる「きっか

けバスしまね」が企画。参加した学生8人が、岩手県陸前高田市では、津波で流れた土砂から遺留品を探す作業が終わっていない現状や、同じ町内でも被災状況で支援に差があり、住民に亀裂が生じている実態があることを報告し「継続した支援が必要」と訴えた。バス参加者で、島根大法文学部3年の瀬戸笙子さん(21)は「今後はきっかけバスしまねのメンバーで公民館などを回り、地域の人と一緒に防災意識を高めていけるような活動がしたい」と意気込んだ。

「地産地消」を研究、地域貢献を進める大学が、研究を支援する地元の拠点を事業の採算に含めた。

本学は大学として、地域の「土」に根を張り、地域を「土」に育て、地域を「土」に育てることを目指している。そのために、地域の「土」を育てることを目指している。そのために、地域の「土」を育てることを目指している。

公立大学法人 島根県立大学



理事長 ほんだ いくいち
本田 雄一氏

キャリア支援で高就職率

「高就職率」を達成するために、キャリア支援を強化している。そのために、キャリア支援を強化している。そのために、キャリア支援を強化している。

「高就職率」を達成するために、キャリア支援を強化している。そのために、キャリア支援を強化している。そのために、キャリア支援を強化している。



松江キャンパス全貌

法人概要

所在地	浜田キャンパス / 浜田市野原町 2433-2 出雲キャンパス / 出雲市西本町 151 松江キャンパス / 松江市新沢 7-24-2
設立	2007年 島根県立大学、島根県立鳥取女子短期大学、島根県立福知短期大学が統合・法人化
出資者	135 億円 島根県立大学本部 / (浜田キャンパス) 総合政策学部 (出雲キャンパス) 看護学部 四 大学院 / (浜田キャンパス) 北東アジア国際研究科 短期大学部 / (出雲キャンパス) 専攻科 (松江キャンパス) 健康栄養学科・保健学科・総合文化学科
職員数	役員数 5名 教職員 127名 一般職員 78名
学生数	学部学科生 1,806名 大学院生 36名

健康栄養学科は出雲 松江4年制化で正式案

島根県立大

島根県立大は24日、経営委員会と理事会を開き、4年制化を目指す短期大学部（松江キャンパス、松江市浜乃木7丁目）のうち健康栄養学科について、出雲キャンパス（出雲市西林木町）

への移転を正式な案とし、設立団体の県に検討を要望することを決めた。

4月に公表した試案では、松江キャンパスに残すこととの2案を併記した上で「出雲移転が望ましい」としていた。

出雲には看護学部があり、移転する健康栄養学科と統合して「看護栄養学部」に再編するとしている。

大学の試算では、同学科を他の2学科とともに松江に残して4年制化する場合より、地方交付税が多くなり、毎年の県負担を2億4200万円軽減できる。県民からの意見公募では松江に残すことへの希望も寄せられたが、関係業界の代表者との意見交換会では、発言者全員が出雲移転に賛成したことなどから、総合的に判断したという。

平成 26 年 6 月 25 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報

観光産業担う人材育成を

交流拡大で活力維持へ 松江市 首長ら重要性説く



観光振興に向けた地域資源の生かし方について、松江市学園南1丁目、パネリストらによる議論の様子。

島根県の観光振興に向け、地域資源の生かし方を考える「緑の国しまね観光シンポジウム」が28日、松江市内であり、首長ら70万人を割った県人口の

減少を交流人口拡大で補い、地域活力を維持、発展する有力な手段である観光への理解を深めてもらうと、島根県立大が主催。下森博之津和野町長、山内道雄海士町長、小泉凡・同大短期大学教授、北海道開拓記念館の石森秀三館長、シース総合政策研究所（松江市）の藤原洋会長が議論した。

下森町長は、伝統的建造物が立ち並ぶ町中心部で新たに始めた「町家ステイ」事業を説明。空き家を改修、再生し、観光客に貸し出す取り組みで「宿泊の新たな形を提案し、客数の増加につなげたい」と語った。

山内町長は昨年9月に隠岐諸島が世界ジオパークに認定され、これから

「正念場」と強調。隠岐4町村同士で観光情報を共有し、隠岐全体の受け入れ態勢を充実させる考えを示した。一方、小泉氏は小中学生を対象に開いている、松江の文化を五感を頼んでもらう。観光産業を担う人材への大切さを訴えた。

平成 26 年 6 月 29 日 付 け ・ 山 陰 中 央 新 報